

ISO次期改正状況(29)

ISO/DIS9001に関するTC176/SC2議長のナイジェル・クロフト氏のビデオメッセージ

ISO/DIS 9001が89%の承認票で承認され、FDISの開発に向けて進んでいることに津お手は既に紹介しましたが、TC176/SC2議長のナイジェル・クロフト氏のビデオメッセージが、ISOのウェブサイトに掲載され、そのインタビューの様子がJACB(日本マネジメントシステム認証機関協議会)のISO9001次期改定の状況-10(2014年12月17日)に掲載されていたので、紹介しておきましょう。

Q:ナイジェルさん、DIS9001が承認されて、次の段階に行けることになりましたが、今の状況を説明して下さい。

A:DIS9001に対して90%近い賛成票を得て、予定の軌道に乗って次の段階にいけることになったことは嬉しい限りです。全員の賛成ではなかったのですが、コンセンサス形成というISOの基本方針に従って、反対コメントも建設的コメントも、寄せていただいた全てのコメントを考慮に入れて、来年の発行に向かってFDISの策定に取りかかります。

Q:簡単にどんな考え方を持っているか説明して下さい。

A:私たちは、プロセスアプローチ、一貫して顧客のニーズと期待を満足するという望まれる結果を得るための効果的なプロセスマネジメントと言う考え方を堅持しています。改正規格をご覧になればよくわかりいただけると思いますよ。

改正規格では三つのコアコンセプトを大切にしています。これは、「序文」に説明がありますが：

- ①まずプロセスアプローチです。これは2008年版でも成功を収めていましたが、改正版ではマネジメントプロセスという体系的な定義を適用しています。このようなプロセスが相互に作用し合って、品質方針に従い、組織の戦略的な方向に沿って、製品やサービスの意図された結果を一貫して実現する事ができるように強調をしています。ですから、品質マネジメントシステムは組織の戦略的方向にしっかり織り込まれ、全体として矛盾がないものでなければなりません。
- ②二つ目には、このことに重ねられたシステムプロセスのPlan-Do-Check-Actという方法論で、Plan-Do-Check-Act方法論は個々のプロセスにも適用されますが、システム全体にも適用され、意図された結果をうまく達成できるようにします。
- ③第三のコアコンセプトは2015年版で新しく取り込まれる考え方で、リスクベース思考で全体の焦点を合わせます。これは、望ましくない結果を予防することを目指した考え方で、望ましい結果というのは、明らかに適合製品・サービスを得ることです。

Q:これからの予定を教えてください。

A:我々WG24の次のステップは受け取ったコメントを評価することで、てんてこ舞いしています。WG24は11月の半ばに会合を持って、コメントを検討しますが、レベルの高い考え方から本当に編集上のコメントまで様々です。それから2~3ヶ月をかけてメールで認証を考えて検討を続けます。

認証に関連して言えば、ISO9001の規格上は、認証は要求として扱われる対象ではありません。ISOでは組織が適合を実証するために任意で行うものとしています。認証については、既にIAFが3か年の認証移行期間を決めています。我々は、組織が最終まで変化をすることを待つて欲しくはないのです。我々がFDISに進む前のDIS段階の今の段階から、組織は準備を開始することができるのです。DISを見て、規格の変化からどのように利益を得ることができるか、規格の変化から我々は顧客にどのようにして信頼を提供できるよ

になるか、どのようにして我々は顧客の要求を理解でき、要求に適合した製品・サービスを長期に亘って一貫して提供できるかを、前向きに考える事ができます。

ですから、どうしようとパニックになる必要はないのです。適合しなければならない改正規格の変化にどうしようと座して思案をするのではなく、DIS9001を使って適合製品・サービスをサプライチェーンに提供するための本当に頑丈な品質マネジメントシステムに向かって先取りをすることが望ましいのです。

ですから、今から取りかかり始めましょう。国際規格が発行されてから3年の期間があります。その間に認証されれば改正規格に移行できるのです。

ありがとうございました、ナイジェルさん。